

# 戦争によってうばわれる人権とは

柏原中学校 三年 本田 七彩

今、ウクライナとロシアでは戦争によって多くの一般市民が犠牲となり、たくさんものや機会が奪われています。身近なところでは、ガソリンや電気料金、小麦などの値上げを感じていました。それでも日常生活に支障はない程度と捉えていましたが、先日本当に身近に考えさせられる出来事がありました。

私は夏休みに、ウクライナのキエフバレエ団の公演を見に行く機会がありました。当演のチケットを取った時の演目は「白鳥の湖」や「眠りの森の美女」などチャイコフスキーの作品がたくさん予定されていて、とても楽しみにしていました。

しかし、公演がせまって二ヶ月前の六月頃、突然演目変更のお知らせが入ってきました。ロシアとの戦争の影響で、ロシア出身であるチャイコフスキーの音楽が使用できなくなったという理由でした。もちろん楽しみにしていた「白鳥の湖」や「眠りの森の美女」の演目も中止になりました。遠くの国で争いが起こっていても、まさか戦争とかけ離れた日本で、そして全く関係のない芸術の世界にまで影響を及ぼすとは思っていませんでした。これが、実際に戦争の影響を身をもって感じる初めての体験となりました。演目の変更は観客側の私たちはもちろん、それ以上にダンサーの方々はとても残念で、不本意だったと思います。特にチャイコフスキーの楽曲は、バレエ公演では定番です。これまでは、国を超えて、世界中で普通にこの音楽が使われていました。その音楽が使えなくなったということは、ウクライナのダンサーから「普通」が奪われたということになります。

私は、人権とは人々が皆平等で普通の生活ができる権利だと思います。「普通」は、人によって捉え方が違うかもしれません。しかし、戦争によってあの国ではできるのにこの国ではできない、今まではできていたことが人々の意志と反してできなくなるという状況は、平等でも普通でもないと思いました。

実際に公演では、ダンサーの方々が、代替えの演目として、ウクライナの国花であるひまわりを象徴した内容の演目を踊られました。国の大変な状況を背景に抱えながらも明るく生き生きと笑顔で踊る姿を見て、とても感動しました。それと同時に、次に公演を観るときには、是非ロシアとウクライナがお互いの国を認め合い、それぞれの文化や芸術を当たり前前に尊重できるようになってほしいと強く思いました。このキエフバレエ団という長年親しまれた名称も、「キエフ」がロシア語であるという理由から、もうすぐウクライナ国立バレエ団に変更されるそうです。

私はこの出来事をきっかけに、「人権」とは何かを深く考えてみました。国と

国が争うことで、関係のない人々の尊い権利が奪われてしまうのはあってはならないことであり、自分には関係ないと安易に考えることはよくないと改めて思いました。

今の日本では国同士の大きな争いごとはありませんが、いつ何が起こるかは誰にもわかりません。今でも国内で物騒なニュースがたくさん流れていて、誰かの勝手な考えや行動から人の命が奪われたり、人権侵害をされるなど決して安心できる世の中ではないと思います。

私は、日本だけではなく世界中の誰もが安心して暮らせる、そんな世の中になることを願っています。そのために自分にできることは何かと考えた時、おかしいと感じたことがあれば、自分には関係ないからと見て見ぬふりをせず、声に出していけるようになることだと思いました。また、話し合いなどの場では自分の意見を一方的に伝えるだけでなく相手の意見も尊重し進めることでより平和に物事を解決していこうと思います。

このように、身近なところでできることから始めていくことが平和につながる第一歩であり、人権を大切にすることだと私は考えます。